

## 静岡・韋山反射炉

にらやまはんしゃろ

発掘調査は、反射炉の保存修理事業に伴つて実施され、鋳台、炉体下部の基礎、工場群の一部などを調査した。木簡などの主要遺物は鋳台内から発見されている。

所在地 静岡県田方郡韋山町中  
調査期間 一九八八年（昭63）七月～九月  
発掘機関 韋山町教育委員会

調査担当者 原 茂光  
遺跡の種類 製砲施設  
遺跡の年代 一九世紀

### 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

史跡・韋山反射炉は、伊豆半島の頸部、狩野川の一支部古川沿いに所在する。東海道三島宿から南へ約八km、伊豆半島南端の下田までは、二二一畝ほどの位置にある。



(沼津)

れた。

反射炉は、大砲製造の工場群で、水力を動力として使用するため古川沿いに展開し、標高は二二一mである。ここで製作された大砲は江戸湾品川沖の台場に据えられた。

### 8 木簡の釈文・内容

(1) 「タライバ □ □

砲兵本廠行

(2) 舍

(3) 「余」（焼印）

(106)×64×6 019  
(86)×(48)×13 081

143×43×9 019

三点とも、鋳台内より他の遺物に混在して発見された。

(1)は、「タライバ……砲兵本廠行」と書かれ、タライバス銃を砲兵本廠へ送った荷札であることが判る。反射炉を建築した江川坦庵は、安政二年（一八五五）六月勘定所からタライバス銃を稽古用に借りており、このようなものの返却用の荷札かも知れない。(2)は、「舍」と読める墨書きがある。(3)は、「余」の焼印である。

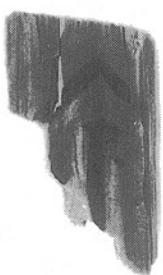
八九年)  
韮山町教育委員会『史跡韮山反射炉保存修理事業報告書』(一九



(1)



(2)



(3) (部分)

(原  
茂光)

### 山梨・大師東丹保遺跡

所在地 山梨県中巨摩郡甲西町大師・清水

調査期間 一九九三年(平5)四月～一九九四年一二月

発掘機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者 新津 健・田口明子・小林健二・小泉 敬

保坂和博・松土一志

遺跡の種類 建物跡・水田跡・祭祀跡・古墳・地震跡

遺跡の年代 一世紀～四世紀・一二世紀～三四世紀

7 遺跡及び木筒出土遺構の概要

大師東丹保遺跡は、甲府盆地の中でも低位の地域に位置し、標高

二五〇m前後を測る。この



(鰐沢)

一帯は甲府盆地西縁にある  
櫛形山から流れ出す幾筋も  
の小河川によって形成され  
た扇状地の扇端部にあたり、  
豊富な湧水のもと、弥生時  
代以降の遺跡が多く、古代  
末から中世にかけては甲斐

源氏の一統が居館を定めた